

基本目標3 安心・安全で住みよいまちづくり(地域・暮らし・生活基盤)

【KPI 目標値】

指標名	現状値	目標値
安全な水道の供給達成率	100% (2020年度)	100%
下水処理に関する整備計画進捗率	22% (2020年度)	100%
町営住宅管理戸数	294戸 (2020年度)	286戸
町道除排雪拡幅路線数	除雪73 排雪・拡幅0	除雪73 排雪・拡幅73
個人による新築(中古)件数	16戸 (2021年度)	15戸(毎年)
転出入者数	-22人[転入142 転出164] (2020年度)	0
防災訓練実施件数	0 (2021年度)	年1回以上
交通事故発生件数	54件 (2021年)	50件以下
建物火災出火件数	1件 (2021年)	0件
刑法犯認知件数	2件 (2021年)	10件以下
消費者被害防止啓発活動実施件数	2件 (2021年)	年2回以上
防災行政無線戸別受信機設置率	86% (2021年)	90%以上

【3-1】 ライフラインの充実

現況と課題

道路・水道・下水道・住宅環境の充実は、町民の生活の基盤となるもので、快適で安全な生活を送るために必要不可欠なものです。そのため、自然環境と調和した潤いのある環境づくりと基盤整備の推進を図り、快適な生活環境の整備を推進してきました。

本町は、国道276号と主要道道京極定山溪線、主要道道豊浦京極線、一般道道京極俱知安線、一般道道京極停車場線と町道が横断に連絡している状況です。自家用車の普及、大型農業機械等の導入、生産活動の円滑化や住民生活のさらなる向上のため、町道、農道、林道の路盤改良や、主要路線における歩道整備、側溝整備および老朽化した橋梁の修繕を含む総合的

な改良事業を計画的に進める必要があります。また、冬季間における除排雪を的確に行い、円滑な交通確保の対策が求められています。

水道・下水道の効率的な運営には、施設や設備の老朽化に対し、適切な改修、更新が必要であり、計画的に修繕・改築工事を進めています。また、安心安全な水道水を提供するために、定期的な水質検査を実施しています。

住宅及び住環境の整備については、結婚や出産を希望する若年世帯、子育て世帯が必要とする住宅が少ない状況にあることから、多様なニーズに応じて、公営住宅の適切な修繕や建替を進める必要があります。

取り組む施策

安心安全で住みよいまちづくりのため、今後も、ライフラインの整備を計画的に進め、充実を図ります。

倶知安町までの高速道路や新幹線の延伸に伴い、本町においても交通量の増加が見込まれるため、道路・歩道・橋梁の整備や道路面の補修、道路側溝の清掃および区画線や道路附帯物等の維持補修の促進を継続して進めていきます。冬季間における除排雪については、除雪体制の強化を図り、除雪車等の適切な維持更新を進めます。

水道は、水質検査を継続して実施し、各施設の見直しや維持管理、修繕に努め、安心安全な水道水の供給を行っていくほか、下水道は、計画に沿って適切な修繕、更新を行い、公衆衛生の維持を図ります。

また、快適で衛生的な住環境を確保するため、地域の交流の場を維持するほか、公営住宅等の長寿命化を促進し、住宅や建築物への省エネに向けて情報発信に努めます。

- ・町営住宅の長寿命化の促進
- ・町道の適切な維持補修の継続
- ・橋梁の長寿命化の促進
- ・安心安全な水道水の提供
- ・配水管及びポンプ施設の維持改修の促進
- ・適切な除排雪体制の維持・強化
- ・交流の場の維持



関連する計画

- ・京極町簡易水道事業計画
- ・京極町簡易水道事業経営戦略計画
- ・京極町特定環境保全公共下水道事業計画
- ・京極町下水道事業経営戦略計画
- ・下水道ストックマネジメント計画
- ・京極町下水道BCP(事業継続計画)
- ・京極町公営住宅等長寿命化計画
- ・京極町橋梁長寿命化修繕計画
- ・京極町住生活基本計画

関連 SDGs



【3-2】 移住定住の促進

現況と課題

本町の人口は、令和2年の国勢調査で2,941人となっており、平成22年における人口3,811人と比較しても、急速な人口減少が進んでいる状況です。

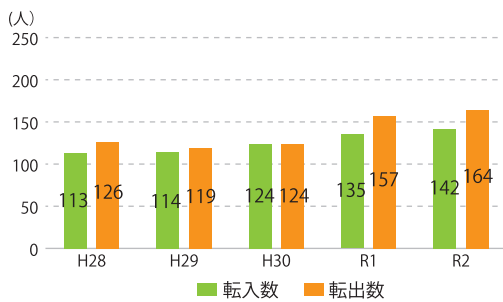
地域社会の担い手が減少しているだけでなく、消費や地域経済が縮小するなど、様々な社会的・経済的な課題が生じています。若い世代を中心に地方移住への関心が高まってきている傾向や感染症の拡大に伴うテレワークの普及など、意識・行動の変化を契機ととらえ、新たな移住定住施策を実施する必要があります。また、関係人口と呼ばれる地域と多様に関わりを持つ人々に対して、地域づくりの担い手となれるような仕組みづくりが必要です。本町では、平成25年度から新築住宅の取得に要する費用に補助金を交付しているほか、令和元年度からは、賃貸共同住宅の建設に対し固定資産税の減免や補助金を交付しています。しかし、定住を望み住宅の建築を進めるには、さらなる住環境の整備が求められています。

後志管内の官民連携事業として、平成23年度から、「しりべし空き家バンク」の運営を開始し、移住・定住促進、住宅ストックの活用や循環利用促進、良好な景観形成及び地域の活性化を図っていますが、本町においても、生活や子育てなどの各種支援を充実させて、住みたい、住み続けたいと思えるまちづくりを行うことが必要です。

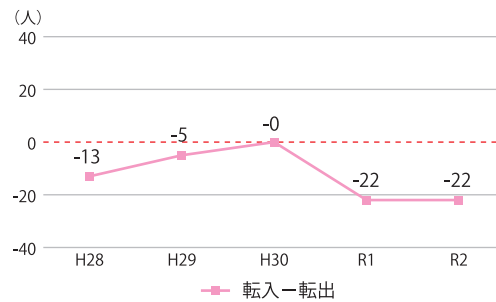
関係人口：

地域や地域の人と多様な形で関わる人々のこと。例としては、地域内にルーツがある人、過去に居住や勤務したことがある人、何度も行き来する人などのこと

【転入数及び転出数の推移】



【転出超過数(転入-転出)の推移】



(出典) 住民基本台帳



取り組む施策

町民に対し、住宅の新築や取得の際には、補助金の積極的な活用を促し、賃貸共同住宅建設を促進する補助金を含め、今後も継続的な支援を行います。また、住まいづくりの促進を図っていくため、住宅環境の整備を推進していき、引き続き、北海道後志総合振興局等関係機関と連携し住宅情報を提供していきます。

移住定住を図るためには、安心して子育てができるような相談体制を整備することや経済的な支援の構築を行い、「京極町に住み続けたい、京極町に戻ってきたい」と思える取組を推進します。また、本町に関わりのある方が地域づくりに参画できる仕組みづくり、ホームページを活用した情報発信の強化、移住体験や移住定住センターを活用した首都圏へのPRなど、新たな移住定住対策や関係人口を増加させる取組の充実を図っていきます。

- ・住宅の新築、取得に対する支援
- ・民間賃貸共同住宅の建設を促進するための支援
- ・「しりべし空き家バンク」の周知及び利用促進
- ・新たな移住定住対策や関係人口を増加させる取組
- ・生活、子育て支援の充実
- ・移住定住希望者向け首都圏へのPR

関連 SDGs



【3-3】公共交通の充実

現況と課題

本町の公共交通については、地域の発展と町民生活の利便性を支えている民営バス路線（倶知安～京極～伊達）、（倶知安～京極～喜茂別）があり、本町も補助・支援を行っています。

人口減少やマイカーの普及などに伴い、バスの利用者数は減少傾向ですが、通院、通学、通勤や運転免許証の自主返納後の移動手段など、日常的な移動のためには、今後も路線の維持・確保が必要です。

また、本町周辺において交通網の整備が進んでおり、北海道新幹線の工事実施計画が平成 24 年に国土交通省より許可され、新幹線は札幌まで結ばれることとなり新幹線倶知安駅が開業されることになりました。高速道路である後志自動車道についても、平成 30 年に余市町まで整備され、今後、倶知安町への開通に向け工事が進んでいるところであり、札幌市や新千歳空港からのアクセスが向上することから、2 次交通の確保を図っていくことが必要です。

取り組む施策

公共交通については、現運行体制の維持・充実を図りながらも、町民の買い物や通院、通学、通勤など多様化する町内ニーズに対応していくため、新たな交通手段等について検討を行います。また、北海道新幹線延伸に伴う新幹線倶知安駅開業や、高速道路後志自動車道の倶知安町の延伸に向けて、関係人口を増加させる仕組みや交通利便性を図る取組により、開業効果を十分に発揮させ、近隣自治体と連携を図り 2 次交通の確保に取り組めます。

- ・近隣自治体と連携した胆振線代替バス路線の維持、確保
- ・近隣自治体と連携した2次交通の確保
- ・北海道新幹線駅開業、後志自動車道延伸に伴う関係人口増加に向けた取組
- ・公共交通利用の促進につながるPRの実施

関連 SDGs

